

アレルギー緊急時対応マニュアル

家庭版

症状あればチェック☑→シート下の指示に従い行動

子どもに異変？

アレルギー症状かもしれないと考える
(食物の関与にこだわらない)

「息が苦しい」
「気持ち悪い」
「のどがへん」
「お腹が痛い」
「かゆい」
「ブツブツがでた」

★発見者

- 子どもから目を離さない
- 他の家族を呼ぶ
- まず右の緊急性の判断

原因・責任の追及
よりもまず行動



安静を保つ体位

ぐったり・意識もうろうの場合
血圧が低下している可能性がある
仰向けにして足の下に枕などをいれ
15~30cm高くする



ショック体位

吐き気・おう吐がある場合
吐物による窒息を防ぐため
からだを横に向ける



呼吸困難が強くて
横になれない場合

上半身を起し
椅子の背もたれなどに
寄りかからせる



緊急性が高い症状はあるか？

5分以内に判断する！

全身の症状

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便をもらす
- 脈を触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い



呼吸器の症状

- のどや胸がしめつけられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳こみ
- ゼーゼーする呼吸



消化器の症状

- 持続する強いおなかの痛み
(がまんできない)
- 繰り返し吐き続ける



ひとつでもあり

なし

- その場でただちにエピペン®使用
迷うとき使用 (使用時間 :)
→ **エピペン®使用の手順(裏面へ)**
- 救急車要請(119番通報)
→ **救急車の要請で伝えること(裏面へ)**
- ショック体位・嘔吐あれば横向き
- その場で安静・動かさない
- 可能であれば抗ヒスタミン薬・ステロイド内服

反応呼吸なし

□心肺蘇生・AED (使用時間 :) → **手順(裏面へ)**

全身		
呼吸器	□数回の軽い咳	
消化器	□中等度のお腹の痛み □1~2回の嘔吐 □1~2回の下痢	□軽いお腹の痛み (がまんできる) □吐き気
粘膜症状	□顔全体のはれ □まぶたのはれ	□目の痒み、充血 □口の中の違和感・ 唇のはれ □くしゃみ・鼻水・鼻づまり
皮膚症状	□強いかゆみ □全身に 広がるじんましん □全身が真っ赤	□軽度のかゆみ □数個のじんましん □部分的な赤み

ひとつでも
あてはまる場合

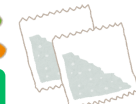
ひとつでも
あてはまる場合

- エピペン®準備
- 抗ヒスタミン薬内服
(内服時間 :)
&
ステロイド内服
(内服時間 :)
- 咳がある場合、気管
支拡張薬内服・吸入
- 速やかに受診(歩かせ
ない)(救急車要請可)

- をすすぐ(手や
目)洗う・冷やす
- 抗ヒスタミン薬
(内服時間 :)
- ステロイド内服可
(内服時間 :)
- 安静に1時間観察
- 1時間以内に症状
の改善がなければ
病院を受診する

エピペンある/なし
あればどこにある？

飲み薬はどこにある？



エピペン®使用の手順：迷うときは使う！

□ 子どもに声をかけながら、できるだけ複数で対応する

① エピペン®を打ちやすい体勢をとる

- 仰向けにねかせる(必要時はショック体位に)
- エピペン®使用者は、子どもの脇に座る
- 介助者は、エピペン®使用者の反対側に座り、右のように、子どもの足の付け根と膝を抑える
- もうひとり介助者がいれば上半身を抑える



② エピペン®をケースから取り出して 利き手で「グー握り」する

- オレンジ色を下にして握る
- 握ったら持ちかえない



③ エピペン®を打つ位置(★)を確認

自分の位置と反対側の太もも前面外側
かつ 介助者の両手の中間

- 服の上から打ってよい
- ポケットの中を空にする



④ エピペン®を打つ

- 青い安全キャップを上引き抜く
- オレンジ色の先端を★に軽くあてる
- そのまま垂直にグッと押しつける
- 「パン！」と音がしたら、押しつけたまま3秒待つ
- エピペン®を太ももからゆっくり離す
- オレンジ色のニードルカバーが伸びていればOK
- ※オレンジ部分が伸びていなければ④をはじめから行う



□ 子どもに声をかけてから打つ
「エピペンをするよ！じっとしてね！」

⑤ その後

- 効果は数分で出現し約15分持続
- 注射部位を軽くもむ
- 救急車が来るまで症状の観察を続ける
- 使用済みエピペン®はケースに入れ、病院へ持参する
- (2本目のエピペン®がある場合)
10分後にも「緊急性の高い症状」があれば2本目のエピペン®を使用



心肺蘇生とAEDの手順

1 反応の確認

- 肩を叩いて大声で呼びかける

同時に

反応がない

3 呼吸の確認

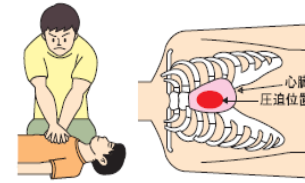
- 胸とお腹の動きを見る
- 10秒以内に判断

普段通りの呼吸をしていない

4 胸骨圧迫

必ず

- 胸の真ん中を両手で圧迫
- 強く(胸の厚さの約1/3)
- 速く(100回/分)
- 絶え間: 100回/分(小限に)



人工呼吸

可能なら

- 2人以上で対応できれば実施
- 胸骨圧迫30回+人工呼吸2回
- 鼻をつまんで、下顎挙上
- 約1秒で胸が上がる程度に吹き込む



5 AED

- 準備中も胸骨圧迫をできる限り止めない
- 電源を入れて音声ガイドに従う
- 電極パッドを貼る(右上前胸部、左下側胸部)
- ショックの指示があったら、ショックボタンを押す
- 直ちに胸骨圧迫を再開



救急車の要請(119番通報)で伝えること

「アナフィラキシーでの救急要請です！」

- 電話番号、住所 ※事前に記入しておく

- 子どもの名前、性別、年齢
- 現在の状況、原因わかれば伝える
- エピペンの有無、使用したかしていないか
- 私(通報者)の名前



かかりつけの病院名：電話番号：主治医名